

平成31年度 嬉野市立大草野小学校 学校評価計画

1 学校教育目標 未来へかがやけ 蛭っ子！ ～笑顔いっぱい、生き生きと学び合う蛭っ子の育成～	2 本年度の重点目標 ○学び続ける子ども ・意欲的に自主的に学習に取り組む。 ・じっくり考え、相手に伝わるように表現する ・進んで読書をする。 ○思いやりのある子ども ・当たり前のことが当たり前に行える。 ・自他のよさを認め合いながら助け合う。 ・地域に学び、地域を愛する。 ○たくましい子ども ・進んで心と体を鍛える。 ・規則正しい、健康的な生活を送る。 ・危機を回避する。
---	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 学び続ける子ども(知)「学力向上」

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・授業の振り返りを実感し「わかった」「自分でできた」と評価する児童90%以上。 ・授業改善に向け、全職員が授業公開、授業研究会を1回以上行う。	・授業の振り返りを毎時間実施する。 ・授業改善に向けた授業公開月間を設け、相互参観と授業研究会を実施する。
	○学習習慣の定着	基本的な学習習慣の定着	・話を最後まで聞くことができる児童90%、進んで発表しようとする児童85%を目指す。 ・「家庭学習にきちんと取り組んでいる」と答える保護者95%を目指す。	・話の聞き方、発表の仕方を全学年共通理解して学年に応じた指導を行う。 ・音読・漢字・計算の家庭学習に継続的に取り組み、自学についても保護者への啓発を行う。
	●学力の向上	算数科における思考力及び表現力を育てる指導方法の工夫	・児童の思考力・表現力を高めるための授業づくりを通して、活用力を育てる。 ・算数科の学習状況調査・標準学力検査において、各学年、県及び全国平均以上を目指す。	・算数科以外の教科にも主体的・対話的に学び合う活動を取り入れる。 ・個に応じた指導を充実させ、計算タイムや補充学習では全職員で指導に臨む。
	○読書指導	読書指導の推進	・年間130冊達成児童100%を目指す。 ・いろいろなジャンルの本に興味関心を持つ児童を増やす。 ・毎月「ノ・レ・ビ・ノ・ゲ・ム・デー」を実施し、読書の実施率を70%以上にする。	・教師やボランティアによる読み語りを実施するとともに、委員会児童の企画による図書館祭りを利用し読書の奨励を行う。また、親子読書回覧板やノ・レ・ビ・ノ・ゲ・ム・デーを実施し、家読を勧める。
	○ICT活用教育の推進	ICT活用教育指導の推進	・児童が、コンピューターや電子黒板、インターネット等を効果的に活用して、主体的に学習に取り組ませる。	・情報教育専門官との連携を図ながら、職員の研修をさらに充実させる。 ・コンピューターや電子黒板を効果的に活用できる単元や活動をさらに工夫する。

② 思いやりのある子ども(徳)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○基本的生活習慣の定着	奉仕・協力・勤労などの精神や態度の育成	・礼儀正しい児童を目指す。 (あいさつ・返事・言葉遣い・無言掃除・靴並べ・廊下歩行)	・6月と11月に「あいさつ運動」を実施することで、あいさつや返事を上手にできる児童をほめ、常に意識させる。 ・掃除の手順や用具の使い方を指導し徹底させる。 ・掃除強化月間を設け、全校で重点的に取り組む。
	●心の教育	思いやりの心の育成	・学級活動や道徳の授業、集会活動を充実させる。	・自分や友だちを大切に、思いやりの心をはぐくむ学級活動や道徳の授業を大切に ・人権集会や平和集会を行うことで、人権・同和教育や平和教育の推進を図る。 ・コミュニティとの連携を図り、体験活動を充実させる。
	●いじめの問題への対応	多くの目や手をかける学校及び学級経営	・一人一人のよさを認め合い、いじめのないクラスづくりを目指す。 ・学級が孤立しないよう、同一歩調の指導を行い、「学校が楽しい」と言える児童95%を目指す。 ・「予防、早期発見、早期対応、再発防止」を念頭に置き、事案が発生した場合には、組織として迅速かつ丁寧に対応する。	・自分や友だちを大切に、思いやりの心を育む学級活動や道徳の授業を大切に ・いじめアンケートを定期的実施するとともに、教育相談週間を設定する。 ・QUTテストを年2回実施し、結果を活用し学級経営力を高める。夏季休業中に職員研修を行う。 ・職員間において「報告・連絡・相談」を徹底させるとともに、校内いじめ防止対策委員会を開催して、迅速に対応する。また、週に1回行っている「支援を必要とする子の情報交換」を充実させ、職員間の共通理解を図る。
	○特別支援教育	支援体制の確立	・特別支援教育に関する専門性を高めるために年に3回の校内研修を行う。 ・支援を必要としている児童を把握し、個に応じた支援を行う。 ・特別支援教育に関して全職員で共通理解を図る。	・関連機関と連携し、専門の講師を招聘して職員研修を行う。 ・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高めるため適切な指導及び必要な支援を行う。 ・個別の支援計画を作成し、個に応じた指導支援を行う。 ・年度当初の必要に応じてケース会議を行い、共通理解を図る。
	●特別活動の充実	自主的・自発的な態度の伸長	・集会活動や縦割り班活動を通して、思いやりのある心や自己有用感を高める。	・学年や全校の場で出番を作り、達成感を持たせる。 ・縦割り班活動の推進によって、高学年のリーダー性と思いやりの心を育む。 ・集会活動や学習発表会を通して、友だちの良さを認め合う。
	●小学校低学年の学習環境改善の充実	基本的生活習慣、学習習慣の定着	・あいさつや返事など、元気にできる児童を目指す。 ・提出物を確実に提出できる児童を目指す。 ・毎日宿題をきちんとできる児童を目指す。	・あいさつや返事を上手にできる児童を褒め、常に意識させる。 ・朝の時間に提出物を確認し、自分から出せるようにする。 ・決まった量の宿題を出し、その日のうちに点検し返却する。

③ たくましい子ども(体)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	心身ともに健康な児童の育成	・体育科の授業の充実を図り、運動が好きな児童を育てる。(県教委の体力向上推進事業「さがんキッズスポーツチャレンジ」への参加) ・縦割り班での遊びの時間を使って、いろいろな遊びを体験させ、外遊びを推奨する。	・体育の授業作りについて意見を交換したり、学習カードの共有をしたりできるようにする。 ・体育委員会のスポーツレクリエーションの時間を使って、「さがんキッズスポーツチャレンジ」の全種目に全学年がチャレンジできるようにする。 ・掲示板や児童集会を使っていろいろな遊びを紹介し、遊びの楽しさを味わわせる。
	○安全対策	危機管理及び安全対策の強化	・自分の身は自分で守るという意識を持つ児童を育てる。 ・登下校のみならず、外出時の防犯ブザーの所持率を100%にする。 ・交通ルールを守り、自転車の正しい乗り方ができるようにする。 ・「生きる力」の教科書等を活用し、生きる力を育成する。	・関連機関と連携し、不審者対応避難訓練や交通安全教室を実施する。 ・学級活動、全校朝会等の機会を活用し、自転車の乗り方や身の安全を守る方法を指導する。 ・登校時のPTAや交通指導員の立ち番、下校時の見守り隊との協力体制を維持・継続する。 ・年間計画を作成し、年4回生きる力を育成する授業を実施する。
	○望ましい生活習慣の形成	健康的な生活習慣の定着	・年間を通して、立腰・手洗い・うがい・歯みがきを実践し、健康管理ができる児童を育てる。 ・ハンカチ・ちりがみ・つめ・かみ・朝ごはん等、習慣化できる児童を90%以上にする。	・手洗い・うがい・歯みがきを習慣化し、感染症予防に努める。また、学校歯科医と連携し、歯科保健指導をすすめる。 ・衛生検査を週1回実施し、結果を活用することで、習慣化を図る。
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の形成	食事のマナーを守り、好き嫌なく食べる児童の育成	・食に関する知識と関心を持たせ、好き嫌なく食べる児童を増やす。 ・食器の持ち方や箸の持ち方、姿勢に気をつけるなど、マナー面の指導を徹底する。	・学校栄養士による食育の授業や給食だより、健康委員会の発表などを通して、食の大切さを知らせる。 ・6月、11月に給食マナー週間を設け、日替わりでテーマを決めて正しいマナーを身に付けさせる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。	・毎週水曜日を定時退勤日に設定して呼びかけ、特に第3水曜日には実施を徹底する。 ・各教職員の在勤時間等の実態を正確に把握し、特定の教職員に負担がかかることがないよう校務分掌の平準化を図る。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目